

いま愛善苑で何が起こっているのか？

愛善苑千葉総代

日崎真弓

昨年末、愛善苑の危機を訴え、皆さんに文書をお送りしましたが、残念なことに今ふたたび危機的な現状をお伝えしなければなりません。

なぜ昨年来の事態の説明が行われないのか？

平成九年もはや十一月です。愛善苑が誕生して十一年目、思えば昨年来語りきれないほどのさまざま、しかも劇的なできごとがありました。

昨年十二月の総代会での私の質問と、年末に出しました印刷物は大きな波紋となったようでした。

総代会において、塩見事務局長（当時）が辞意を表明され、異議

や慰留にも応じず責任をまっとう

されることもなく、以後役職から

一切身を引くという弁を残して、

金子総代会議長に事務局長をバト

ンタツチされました。

その後、うやむやのままに福島

氏が辞職、さらに今年一月には出

口三平さんほか二名の辞職とそれ

に伴う顧問税理士兼監査役の辞任

という事態になり、さらに節分後、

責任役員七名のうち一名が辞任さ

れました。

しかし肝心の私の質問に対して

は、執行部（責任役員会）からは

何の回答もありません。また

一般信徒の方々には、なぜ、この

ような大きな変動が生じざるを

えなかったのか、納得のいく説明

や経過報告はいまだになされてお

りません。

やめていった方々にはもちろん

責任はあります。しかし、彼らが

どのようにして過ちをおかし、な

ぜそれが数年間にわたって放置さ

れてきたのか、なぜきちんとした

指導が行われなかったのか、愛善

苑という組織のどこに問題があっ

たのかということに対する真摯な

反省と、そこに立脚したこれから

の愛善苑の立て直し策について、

執行部からはなんのコメントもあ

りません。つまり、ひとつの組織

を運営するのに必要なケアが一切

なされていないのです。

これでは、不信感が蔓延するの

は当たり前です。現在、静岡の一

部の分苑などで、今回の事態に対

する釈然とした説明がないので、

更始金を減額して消極的抵抗をし
ている人々がおられます。

わたしは、旧三平さんシンパと

みられる静岡の人たちとは考え方

がちがっているかもしれない。

しかし、ちがうならちがうで、事

実を知るといって同一の情報をも

とお話し合えばお互いに理解

できることではないでしょうか。

静岡の方々には正確な情報から遮断

されているために、たぶんに誤解

されていることもあると思うので

す。それならなおのこと、昨年末

まで事務局でどんな異常事態が進

行していたのか、正々堂々と説明

されることが必要です。

こう言いましたら、ある指導的

立場にある方が「過去のことをと

やくく言うのは愛善苑らしくな

い」とおっしゃいました。まったく奇妙な団体です。非常に日本的。どうも愛善苑というところは、議論や総括をすなわちケンカと思っ

ています。それでいて個人に對するとんでもない誹謗中傷や流言飛語がとびまわる。こんな型は世界に出したくありません。

愛善苑という組織は役員だけのものではありませんから、すべての会員に平等に正しい情報が届かねばなりません。これは運営する側の会員に對する義務です。

神さまのお道のためには改革が必要と、質問を出し、会議で発言し、さらにこの一年間は機関誌づくりなどできるだけのお手伝いをしながら、執行部には昨年来の事態に對してきちんとした経過説明と反省点を明らかにすること、立て直しの具体案の提示、公の議論の場や会員同士の緊密な協力関係の構築などお願いしてまいりました。

会員向けに昨年から今年にかけての一連の事件に對する報告冊子を発行すると明言されていましたが、いつのまにかうやむやになっていきます。もちろん文章にまとめるといふ技術的な問題もあるのですが、武田さんが金子さんに、データさえあれば、文書作成はお手伝いしますと言っておられました。が、どうも役員会の意向として、そのようなものは作成したくないということのようです。不可解な話です。

昨年、同じ千葉分苑にいて、しかも昨年の総代会では私に質問と緊急動議をするようながした現事務局長は、ある時点から急に態度を変え、私に對して連絡や情報交換をするどころか、私のいないところでは根拠のない、勝手な思い込みで私への誹謗中傷をしておられます。人間関係を悪化させ協力関係ができないようにしむけているとしか思えません。矛盾だらけです。

目前の危機！規則会則に執行部みずから違反！

去る九月二十七、八の両日、執行部により機関長会議が招集されました。この会議を正式に知ったのは、十月十三日、金子分苑長から「実は先日機関長会議があります、その報告やお話がありますので、個人的に話したい」というお電話によつてでした。

私は総代の一人です。しかも機関紙制作のお手伝いをしており、千葉分苑の事務局も担当しています。不自然なのは、事前に一切のことが同じ分苑にいなから知らされなかつたことです。今年はずつと変でしたが……

機関長会議の顛末については個人的な問題ではありませんので、十月二十六日の千葉分苑の月次祭終了後に会員の皆さんの前でお聞きすることにしました。

その席上、全国を十三ブロック

に分割したこと、そして十月二十五日までに十五名の総代を事実上勝手に決めたことを知らされました。驚いたことに、そのなかには「一切の役職を辞退する」と言明された方もふくまれています。「関東は三人いた総代が一人になりました。豊玉分苑から松村さんに決まりました」という一方的な報告だけでした。

なぜ、現総代に何の相談も連絡もなく決めたのかとの私の問いに對して、金子分苑長の答えは「総代なんかは何もいう必要はない」というもので、たいへん権力的で侮辱に満ちた言葉でした。

これに對して、会員の武田さんから、

「第一に、総代会の定数を減らすのに、総代会そのものの決議を経ず、会則・規則になんの規定もない機関長会議で決議するのは、県知事会議で衆議院の定数を減らすのと同じことで、非合法である」

「第二に、総代は信徒の代表として中央に出でいただく方であり、関東地区からの選出は関東信徒大会を開催して行うべきである。いまのような一方的な申し渡しは承認できない。機関長が勝手に決めるというような手法がまかり通れば、一般信徒の意見は教団運営にまったく反映できないことになる。ここまで組織運営のイロハも無視するよ
うなことは、創価学会でも北朝鮮でもやってない。愛善苑がこんな目茶苦茶なところとは知らなかつた」

との指摘がなされましたが、金子さんからは適切な返答はありませんでした。

そこで私から、たしかに過去においてはは地方組織も充実していませんが、実質的に中央から総代を任命するようなたちになつていたし、事実、私も川崎先生から指名されてお引受けしたわけですが、もう十年もたった現時点

では、愛善苑本来の会則にのつた選出、つまり信徒大会による選出が望ましい方法です（「会則第十七条の四」には「会則第十七条（地方組織）の四、地方機関長並びに総代は、所属会員で選出します」と明記されている）。またそもそも次期総代の選出方法および定数削減、その選出区について、規則会則に定めのない機関長会議で決めることがおかしいのであつて、現行の総代会で決議すべき事項である旨を、皆さんのまえで切々と申し述べました。

すると金子さんは「目崎さんのいうことは正しいが自分とて、自分の意志でやっているわけではない」との返答がありました。つまり一方的な総代選出の区割り選定、定数削減、機関長による選出は、すべて責任役員会の意向ということになります。

正しいことならばなぜ当たり前の手続きをしないのでしょうか。また全会員の納得を得るよう説明

の努力をしないのでしょうか。

驚くべき詭弁

入手した機関長会議のテープによりますと、呆然とする機関長さんをまえに、執行部から驚くべき提案がなされております。一切が責任役員会の秘密会議で決められ、筋書きも作られ、総代会で審議し理性を働かすことさえせず、とつぜん既成事実化されようとしていることが手にとるようにはわかります。誰も聞きもしないのに、しきりに塩見旧事務局長が、これは三丹主会のと時の問題とはちがいますよ、と強弁しているのが印象的です。

この会議での執行部の説明を要約すると、

「これから規約を改正して宣教方針など具体的な問題については機関長会議の所轄事項とします。ですからこれからの愛善苑の中心は機関長会議になり、総代会は予算審議と財産保全のみを目的とした

いわば参議院のようなものになります。ですから現在の総代は二十八名おられますがそんなにいらないので、会則にある十五名に削減します。ですから総代は活発な若い方ではなく、人生のすいも甘いもかみわけたお年寄りをお願いします」

ということですが、
そもそも総代の定数を十五名以上に増やしたのは、次期の人材育成の意味をかねて、愛善苑の運営の実態を知ってもらうためであると、塩見旧事務局長がかねて言明されておられました。その方針がいつからどのように変わったのでしょうか？

奇怪なことに、機関長会議のテープを聞きますと、非常に重要な一点がぬけております。これについてはどなたも質問なさらないようですが、十月二十六日の千葉分苑の月次祭で確認しましたところ、愛善苑の舵取りをお願いする責任役員を選任という重要な権

限は総代会の議決事項として残されたまなのです。

また、執行部は「総代会は予算審議と財産保全だけ」という言い方をしばしば繰り返して、「予算審議と財産保全」は重要でない印象を与えようとしています。これほど重要な事項はどこにありますか。

たとえば機関長会議においてある宣教方針なり講演会が企画されたとしても、それには予算がともないです。それを総代会が否決したらどうなるのでしょうか。また財産保全に対しては、「人生のすいも甘いをかみわけたお年寄り」ではなく、活発な質問をする人に出ていってもらわなければ不安でしょうがありません。

いったい穴太の市街化調整区域をいくらずで購入したのか、あれは失敗ではなかったのか（お墓ができると信じて五十万円献金した方がおられます）、赤字のあいぜん出版にいったいいくらず補填してい

るのか、これらすべて愛善苑の財産にかかわる重要な問題です。現状はブラックボックスになっていく財政部分ですが、それをこのままにせねばならない深い理由でもあるのでしょうか。

逆にいいますと、どうも執行部の意向は、このような質問をする人には総代になつてももらいたくないということであります。

つまり、愛善苑の審議議決機関である総代会の現行二十八名を、本来の法定総代十五名にするというのはあくまで名目であつて、狙いは、意見や質問をしていた人間を排除し、さらに昨年来の事態に対して消極的抵抗をしている静岡の一部の分苑の発言力を封じ、総代会を実質的に執行部のいいなりの機関にすることにあるとしか考えられません。

このように今回、執行部から提案され、既成事実化されつつある機構変更は、支離滅裂であり、機関長の皆さんへの説明とは裏腹

に、重要事ばかりが総代会に残されているのです。

そのカムフラージュとして「本来愛善苑を動かすのは機関長だから、活動方針や運営などの審議は今後は機関長会議で行います」と言つて機関長さんの機嫌をとり、多数派工作をしたわけです。

もちろん、愛善苑の活動にとつて、地方機関が重要な柱であることは言を待ちません。機関長会議を全体のなかでどう位置づけるのか、また今後、愛善苑の組織運営はどうあるべきか、これは密室の責任役員会で議論されるべきことではなく、広く叡知を集めて議論すべき問題ではないでしょうか。基本は、一般信徒の声が民主的に反映されるにはどうしたらよいかということにつきると思います。

規則会則を読みましよう

ここで少し説明させていただき

ます。そもそも規則とは、宗教法人の

資格を取得するときに、宗教法人法に基づき監督官庁の指導のもとに交わされた「私たちは、この規則によつて組織を運営します」という愛善苑と公の市民社会との契約です。この規則は遵守しなければなりません。

これに対して会則とは、いわば内規であり組織運営上のルールであります。このルールで愛善苑の特色を出していけるわけですが、まったく規則から逸脱することには問題があります。

このさい規則会則をぜひお読みください。今はとりあえず抜粋します。

規則

第六条2 責任役員および監事は会員の中から総代会において選任する。

(この条項は今回の機構改革でも変更されません)

第七条3 代表役員、責任役員および監事は、辞任または任期満了

後でも後任者が就任するときまで、なお職務を行うものとする。(先般辞任された増谷さんはまだ責任役員として職務を行う責任と資格があります)

八条 代表役員はこの法人を代表し、その事務を総理する。

(事務局の問題は代表役員の責任ということに他なりません)

九条 責任役員は、責任役員会を組織し、次の各号に掲げるこの法人の事務を決定する。(予算、決算、年度末剰金の処分など十四項目が列挙)

2 責任役員会の議事は、責任役員定数の三分の二以上の出席がなければ会議を開き議決することができない。ただし、責任役員会に付議される事項につき、書面をもって、あらかじめ可否の意志表示をした者は出席者とみなす。

十七条 この法人には十五人の総代を置く。(6項まであり)

十八条 総代は第三条の目的を達成するため総代会を組織し、責任

役員に協力してこの法人の護持発展に努めるものとする。

8 次の各号に掲げる事項については、総代会の同意を得なければならぬ。

1、予算、決算、借入金(当該会計年度の収入をもって償還する一時の借入金を除く)、基本財産の処分並びに運用財産中の不動産および積立金の処分)
2、予算外の重要な義務の負担
または権利の放棄

3、規則の変更(執行部はこの規則に違反し、いま非合法の機関長会議で総代の任務変更を条件に、総代選出について合議させ、実際に十月二十五日を期限として不正に総代の選出をした) 4、合併および解散

権力体質を容認する

会員の無自覚

規則の抜粋でもわかるように、宗教団体は宗教法人法で優遇さ

れ、保護されるかわりに、理性を働かし、社会常識を守り、不正が行われぬように内外ともに信頼される運営がもとめられているのです。

正当な手続きや審議合意のないまま、既成事実をつくるやりかたはあきらかに、ルール違反、モラルの欠如と見なければなりません。なぜこういう手法をとらなければならぬのか?

それはすべて、昨年夏の事務局員のおかしな発言問題に端を発しているながら、教えに照らした核心部分についてまったくフタをしたままできたところにあります。また団体の体質も問われなければなりません。

痛みを伴っても膿を出す。 自己改革こそ大切な神業

切開し膿を出さねばならないものを、膿を出さずに蓋をしたならば組織は腐ってしまうでしょう。教団の中に隠しごとはいけないと

思います。

私に対する誹謗中傷はかなりのものです。こういった文書活動を封じ、会議からもしめ出し影響力をなくしたいのでしょうか。ある責任役員からの指示なのか

「あなたが昨年末に質問し事務局の突き上げをしたのは大きな功績だが、これ以上何か言うとたいへんなことになるよ。あなたの功績も名誉もだいなしになる」といったお電話も六月にいただきました。

お名前はふせませます。なぜこんなことまでして、口封じをするのでしょうか? まだまだ隠し事があるのでしょうか?

わたしは功績や名誉のために事務局不信任案を出したわけではありません。このままでは愛善苑がだめになる、聖師さまに申し訳ないと思っただけから質問したのです。そういうことを役員の皆様は理解しておられるのでしょうか。

私は一連のことに「天祥地瑞」

に描かれる水奔鬼や虎熊山の爆発を連想しました。国津神の子が水奔鬼のために命を奪われる場面もありました。実際、愛善苑の現実はどうなのでしょう。物語は予言の書でもありますが……

人の目から見た名誉や功績より神に恥じない、良心に恥じないことこそ、信仰者にとつてもっとも大切なことだと信じています。そうでなくては何もできません。愛善苑の正常化を念頭に、この一年間は執行部に協力しつつ誠意ある対応を待ちました。いまや組織として心を失うかどうか、いま日時ぎりぎりの限界まで来てしまったわけです。

いま愛善苑は求心力を失いつつあります。夏の歌まつりも中止。それを盛り返したい一心で提案した開教百周年のイベントも密室の責任役員会で中止。さらに嘘で固め、ルール無視の機構変更の既成事実化。

「神代において嘘で岩戸を開い

たためにこの世が悪化した」と教えにも示されています。組織を大切にするためにはまず精神が先でしょう。これこそ霊主体従の順序です。

愛善苑は一部の役員や執行部の私物ではありません。すべて聖師さまに帰するものであり、全会員が等しく大切にされるようルールを守り、目的にむかつて努力するところではなくてはなりません。そうなつてはじめて一般社会にむかつて「愛善苑にお入りください。ここは、聖師さまの教えや理想にむかつて間違いなく進める団体です」と宣教できる資格ができるはずです。

みんなの愛善苑です。聖師さまのみ教えとともにありたいものです。役員に誠意があるなら、危機的状況にあるいまこそ全国信徒大会を開催し、これからどう進むべきか公開で議論すべきではないでしょうか。

善と悪の葛藤が表出してくる型の地場こそ本物の証拠

証拠

信仰団体でなぜゴタゴタするか。上役や先輩のいうことは黙ってすべて受け入れるのが信仰だ。めんどうはゴメン。本当のところを知りたいのに確認できる情報が少ない。不信感が消えない……。

しかし聖師さまの時代から本当の神業の地場では常に善と悪との戦いがありました。ことに「錦の土産」などを読みますとそのことが、赤裸々に伝わってまいります。このご遺言とも言える文書には、きちんと善と悪との立て分けがなされています。

上意下達、権力追従が信仰ではありません。み教えの尺度によって自らで判断し声を出す。言霊戦こそ宣伝使の任務です。この一年間にはまたとは巡ってこない開教百年、聖師さま生誕二二六年であ

ればこそ善と悪の葛藤も激しくて当然であり、正しく清い言葉が大切です。

過ちはみな怠慢の罪ぞかし
手足をまめに神に仕えよ

私たちは、けつして執行部の先の方の追い落としを目的とするものではありません。またすべてをゴツチャにしているわけではありません。

おおかたの会員さんは、祭祀、教学、行事など信仰生活において先生がた、役員にお世話になつていることを十分承知し、感謝しています。困難なかつての教団改革運動の担い手としてのご活躍にも敬意を持っています。

しかし考えてみてください。たとえば、祭祀委員長です。お仕事は現役の歯科医さん。祭典、葬祭ではなくてはならない指導者です。責任役員としてあいぜん出版の取締役。これで組織の運営は一

人の人間にとつて限界を超えてい
ませんか。つい行き届かなくなる
分野も出てきます。わかりきった
ことながら、やはり後継者の育成、
周辺との協力が必要です。ですか
ら責任役員としての職務は結果的
に怠慢といえる事態だったので
ないでしょうか。

ちなみに金子さんは建設関係の
会社経営のかたわら、千葉分苑長、
総代会議長、事務局長、機関紙
「神の国」の編集人を兼務中です。

事務的にも議事録の開示がなく、
会議開催の報告もなくなりまし
た。機能マヒも当然でしょう。

会員さんの中には、それぞれ専
門知識やノウハウをもたれる方が
いらつしやると思います。また時
間的体力的に余力のある方もおら
れると思います。そういう方達に
協力を求めて組織のために力にな
っていただくシステムを考えては
いかがでしょうか。

いま一つは役員会の内部不和と
亀裂が組織すべての濁りにもなつ

ていないでしょうか。上流清から
ざれば下流清まらず。まず上の
方々からまとまって機能してい
たきますようお願いいたします。

一般社会ですらガラス張りの政
治が求められています。責任役員
会での議事過程や発言を公開して
下さい。

宗教団体の聖なる部分と 俗なる部分

宗教団体というものは、信仰対
象や心情など心に関する聖なる部
分と組織や人事、財務会計などと
いった俗なる部分とに分けてもの
を考え、順序や正否を判断しない
と、しばしば間違いがおこるよう
です。

愛善苑では、神素盞鳴大神を信
仰対象とすることが会則一条の目
的使命で明確にうたわれていま
す。このことは決して多数決では
かられるものではありません。ま
た信仰心についても、どのくらい
神を敬愛しているかなどはかれる

ものではありません。さらに霊界
物語や神論など教典や聖師の文書
を侵すことは禁物です。

これらは聖なる部分に分類でき
ます。

しかし、代表役員を頂点とする
組織の運営維持発展に関する内外
の必要事務業務は、俗事の性格が
強いものです。社会ルール（法規
や慣習）にそってきちんと行う必
要があり、また愛善苑なればこそ
透明に行う必要があります。

今回の既成事実作りは、悪の型、
権力に立つたら何をしてもいいと
いう恐ろしい型を出すことになり
はしないでしょうか。一億総与党
化といわれているいまの日本社会
を極限にまで進める型です。

朝日は照るとも曇るとも 月は満
つとも欠くるとも たとえ大地は
沈むとも 曲津の神は荒ぶとも
誠の力は世を救う 三千世界の梅
の花 開いて散りて実を結ぶ 月
日と地の恩を知れ この世を救う

生神は 高天原に神集ふ 神が表
に現はれて 善と悪とを立別ける
この世を造りし神直日 心も広き
大直日 ただ何事も人の世は 直
日に見直せ聞直せ 身の過ちは宣
り直せ。

私たちは多くの教訓を学び、さ
らに物語にも親しんでいます。宣
伝歌の誠の力とは何か、すなわち
霊界物語によっていただくお力
です。

十二月六、七日は総代会の予定
とのことです。今までの総代の任
期はまだ満了していません。どう
か二十八名全員、ご参集ください。
総代会は秘密会議ではありません
ん。大勢の会員さんの傍聴をお願
いいたします。十二月八日の記念
祭へもご参拝ください。共に語り、
活動させていただきましょう。

愛善苑をおおう不透明感

愛善苑千葉

武田崇元

形式的民主主義すらない

総代選出

今回の関東の総代選出には驚きました。いきなり月次祭のあとで分苑長から関東からは総代は豊王分苑の松村さんに決まりましたといわれたときには面食らいました。せめて「こう決めたいと思います、ご異議ありませんでしょうか」というべきではないでしょうか。

私は詳しくは知りませんが、いまだき大本本部でもこんなことやってないと思います。北朝鮮の労働党ですら中央に代議員を送るのに、たとえ形式的にせよ下からの決議を積みあげています。愛善苑では、それすら出来ないというのはもう理解しがたい世界です。ま

ったくの上意下達、これでは愛善苑には、形式的な民主主義さえないことになってしまいます。

もちろん機関長さんは自宅を開放して奉仕しておられるわけですから、その発言には一般信徒よりも重みがあつてしかるべきでしょうが、それにしてもしかるべき手続きというものが必要であつて、愛善苑ではこういうふうに一方的に物事が決められるというのは恥ずかしくて人にいえません。

そもそも執行部のいうことは非常に矛盾しています。地方機関が大切というのなら、形式的にせよ各地方機関で信徒大会を開催し、出席できない人からは委任状を提出してもらふなりして、決議するように指導すべきではないでしょうか。

また総代の比例配分をいうのなら、定数を減らさずむしろ三十名くらいにしたほうが、公平な配分が出来るとは思いません。

また、機関長会議というのは県知事会議のようなものでしょう。県知事会議で、国会選挙の区割りを手を勝手にきめて、員数まで削減するというのは、これはもう違法行為です。

こんな法外な話はありません。法外な話だということがわかつているから、誰も質問しないのに、塩見さんがしきりに三丹主会のこととはちがうと強調しているわけです。

だいたい、予算審議、財産管理と教団運営を分離するなんてことは、おかしな話であつて、運営には予算が伴うわけです。それに責

任役員会の選任という重要な機能は総代会に残されたままなのに、総代会は参議院みたいなものだというのも目茶苦茶な話です。

はつきり言いますが、これはいまなお愛善苑には伏せておかない問題があつて、きちんとした質問する目崎さんや大岡さんのような人を総代に再任したくないということがひとつ、もうひとつは旧三平さんシジバとみられる静岡方面の発言権を抑制するためではないでしょうか。

後者の問題の根源はどこにあるかといいますと、執行部では、昨年来の事態がなぜ生じたのかという説明を一般信徒の方にきちんとしておられないわけです。また昨年総代会での目崎さんの質問にもきちんと回答していません。なぜ、

昨年末まで事務局内で進行していた異常事態について、きちんと批判点検を行い、一般会員の理解を得ようとしないうちで、事実を明らかにしないで、一部の発言を封じようとしても不信感が増幅するばかりです。

なぜ事実を明らかにできないのか。したくないのか、出来ないのか。非常に不可解としか言いようがありません。責任役員会が割れているという噂があります。責任役員のなかで森田先生はいまでも三平さんたちにシンパシーをもっておられるようです。そのためいきちんとした総括・反省が出来ないのでしょうか。森田先生にしても異論があるならば、なぜ正々堂々とみずからの所信を機関誌等で表明されないのでしょうか。

責任役員会はまったく密室で行われ、異常なことに、今年にはいつてからはその議事録すら公開されていません。昨年の総代会での塩見さんの答弁でも明らかかなよう

に、何枚も舌を使わないと愛善苑の運営はやってこれなかったそうです。いまだにそのような体質は改善されず、密室のトランプ・ゲームが延々と続いているのでしょうか。

中止された年賀広告の謎

いま愛善苑には不透明、不信感、不安感、不条理、不可解という五つのFが蔓延しているように思います。

僕は二―三月合併号から機関誌をお手伝いしておりますが、不可解なことを山ほど体験しています。まず、毎月開かれていた責任役員会の議事録がまわってきたことがありません。事務局長が編集長を兼任されているにもかかわらずです。これは宗教法入法で義務づけられていることではないでしょうか。

また、十一月のはじめに、僕は金子編集長に、年賀広告を集めて頂くようお願いをしておきました。

た。ところが十一月十三日にお電話してどうなったかお聞きすると、責任役員会の決定で年賀広告は中止したというのです。いったいなんのためにおめでたい年賀広告、それも開教百年を迎える記念すべき年の広告を中止するのでしようか？

機関誌をめぐる流言飛語

さらに機関誌については、「金子さんは編集長となっているが名目だけで、実際は武田と目崎が牛耳っていて勝手に原稿をボツにしている」というとんでもない流言があるようです。いったい誰がこのようなことを言っているのでしょうか？

そもそも、この流言飛語を飛ばしている人は、どうも「牛耳る」という言葉を悪いイメージで使っているようですが、「霊界物語」六十四巻などお読みになればわかりますが、もともとは悪い意味ではありません。牛の耳をひっぱっ

て、あっちへ行け、こっちへ行けとやることから出てきた言葉です。

ですから「牛耳る」というのが、リーダーシップをとっているという意味であれば、これはみんながそれぞれの局面でリーダーシップを発揮しています。たとえば「王仁三郎短歌の鑑賞」や「神歌に親しむ」は金子さんのご提案ですし、四月号の裏神業批判は目崎さんと松田君の提案、八月号のご神号問題の座談会、十月号の窪田先生の全国歌碑の記事などは武田の提案です。また聖師さまの詩をのせたという意見は出口和明氏から寄せられ、塩津さんにもたんに執筆だけではなく、いろいろリーダーシップを発揮して頂いています。私にもっともっと多くの会員さんが編集や企画に参加して頂ければと念願しています。

また、神の国でボツになった原稿は私の記憶するかぎりでは、島根の常松さんが、春日井分苑から

の執行部宛の質問状に対する反論を書いてこられたのを金子さんがポツにした一件のみです。これは、私はポツにすることに反対しましたが、金子さんがポツにしました。それこそ編集長の権限です。

ただ金子さんは事務局長も兼任され、お仕事もお忙しいし、編集というのとは技術的な問題がありまして、実際の制作の采配はわたしがやっています。そのため相当の時間がとられ、オフィスと編集機材と人を提供していますので、金子さんのご判断で五万円を支給して頂いています。

目崎さんはまったくのご奉仕です。しかし目崎さんには通常のご奉仕をこえるだけのかなりのお仕事を頂いています。もちろん私が頂いている五万円にしても、ビジネスとして考えればまったくの持ち出しです。しかし、あくまでご神業をお手伝いさせて頂き、皆さんに、そして聖師さまに喜んで頂ける紙面が出来ればと思つて

励んでおります。印刷所は私の紹介で、昨年までに比べればずいぶんと安くなっています。たぶん昨年までは素人だと思つてふっかけられていたのでしょうか。

みんなが気持ちよく協力して下さいればよろしいのですが、なかにはそうではない方もいるようです。せっかく神田の書泉グランデと話をつけて『神の国』誌を毎号三十冊平積みという話をとりつけてきたのに、いつまでも納品されなかつたり、亀岡の事務所でなか誌面に使える写真はないかと探そうとすると妨害されたりといった事件があいつぐと、これはもうまったく不条理の世界です。そのたびに金子さんや役員さんに抗議しても、事態は本質的に改善されません。奇怪な団体です。

しかも、さきほど述べましたように、責任役員会の議事録はこない、年賀広告も中止するなど、いたい執行部は機関誌をどのようにしたのか、作るほうは一生懸

命やつておりますのに、これでは非常に不安です。来年はいよいよ開教百年なのに、こんな記事をやれというような声がなせもつと役員さんから積極的に寄せられないのか、これも不思議でなりません。そういう声が寄せられないので、こちらが提案してなにか積極的に行うとすると、「牛耳っている」といわれたのでは、たまつたものではありません。

念のため言っておきたいこと

なお、私がかいいうと、すぐ出口和明がやらせていると妙な誤解をする人がいるので、この機会に念のために言っておきますが、そもそも私と和明は考え方もちがうし、私は納得のいかないことは誰の言うことも聞くような人間ではありません。

そもそも出口和明氏は今回の執行部による組織改変案には賛成です。そのことで親子喧嘩しました。

機関長会議の日、たまたま私は熊野館にいましたが、そこへどなたかおいでになって、どうも今日の会議の趣旨はよくわからなかったという質問をされたところ、和明義父が執行部案に賛成する説明をしましたので、あとで私と女房が「ああいう発言は教団運営には関与せず宣教のみに専心するというあなたの立場と、それにもかかわらず持っている影響力を考えると軽率にすぎる」と意見をしたら、この喧嘩になりました。

だいたいこんな文書を見たら、彼は卒倒するのではないかと心配です。彼が重きを置くのは、みんなの「和」です。私は「和」も大切だけれども、時と場合によればもつと大切なものがあるので、いかと思つたので、あえて言挙げをしています。

昨年来の事態と

出口和明は無関係

なお、執行部からなんの説明も

ないまま、昨年来の事態に釈然としない一部の方にせひわかつて頂きたいことがあります。

たまたま昨年の事件の発端が、私のところでアルバイトをしてい
る藤井君が靈界物語の読み残した
ところを亀岡で拝読しようと訪ね
たところ、非常に不愉快な目にあ
い、その調書を私がつたことを
とらえて、すべては出口和明が武
田にやらせているというような陰
謀説が流布されたようです。

しかし、昨年来の事務局問題に
ついては、義父・和明はまったく
無関係です。それどころか彼は福
島発言そのものを最初はまったく
知りませんでした。藤井君の調書
は塩見さんに頼まれたのですが、
そのこと自体、義父に知られたら
ストップをかけられることは目に
見えていたので、まったく内緒で
した。

和明は、問題が公になってもま
だ「そんな馬鹿なことを福島君が
言うわけはないだろう。なんかの

誤解だろう」と言い続けていたぐ
らいです。しかし、これは事実を
知っておいてもらわないといけな
いことなので、目崎さんの総代会
での質問や金子さんの大演説のテ
ープを無理矢理聞かせたわけ
です。

なお、静岡の方から、「和明さ
んは、それまでは何も言わないで、
出口三平さんがいなくなつてから
機関誌で二つの路線があつたとい
うのは卑怯だ」というご指摘があ
るようです。なるほどもっともで
あり、私などたいへんはがゆく思
つてきました。

しかし、義父の立場はその時点、
その時点での愛善苑の「和」とい
うことがつねに最優先課題として
念頭にあって、長年言いたくても
言えない状況にあつたことは理解
してやってほしいと思います。彼
は愛善苑が可愛くてしようがない
のです。ですから、出来るだけ波
瀾をさげたいのです。非常に自分
を抑える人なのです。

しかし事態がこうなつてしまつ
た以上、彼としてはなにも言わな
いわけにはいけません。一般信徒の
方に少しでも理解して頂きたいと
いう一心から、言葉足らずの説明
をしたのでしよう。

ただ私にいわせて頂ければ、執
行部がきちんと事態の推移を説明
してくれないために、義父が言わ
ずもがなのことを言わされている
のは見るにしのびないところがあ
ります。しかしこれまた義父にす
れば、役員さんや金子さんだけに
汗をかかせるのは申し訳ないとい
う気持ちもごくあるのです。

ですから義父にもいろいろ問題
はあると思うのですが、しかし、
私が義父を尊敬し、誤解をおそれ
ずに言えば、愛善苑発展の要であ
ると思うのは、やはり王仁三郎聖
師の教えを伝える宣伝使としての
言霊の力、そして緻密な文筆力が
あるからです。そこが他の出口家
の当主の人たちとはちがうところ

であると思ひますし、これは余人
をもつて変えがたいものがありま
す。事実、あたらしく入信する人
のほとんどは義父の著作や講演会
を通じてです。それだけにこの十
年間の空転は惜しまれます。

なぜか義父を嫌っている方々が
おられると聞きます。その誤解は
これから解けてくると思ひます
が、まあ人間ですから最終的な好
き嫌いはあるかもしれない。しか
し、赤い猫でも白い猫でも宣教す
る猫はいい猫であります。義父が
元氣なうちに、もつともつと彼が
勇みに勇んで宣教に活躍できるよ
うみんな環境づくりをすること
が、愛善苑発展につながるいちば
んの近道ではないかと思つていま
す。

それだけに、私は三月に亀岡会
館で開教百周年の記念講演会が中
止されたというのは残念でなりま
せん。そもそも発端は最初に中野
楊子先生が来年は不思議な数運が
重なる年だということを見され

て、その内容が和明講座で発表されたのでたいへん興奮したわけです。これはやはり愛善苑として亀岡会館で記念講演会をやるべきですよと金子事務局長に意見具申をして、さてカレンダーをみると三月七日がちょうど土曜日なので、

目崎さんが和明氏の予定の確認をいれると、和明氏が暦をみて、この日は新旧が一致するたいへんな日だということをお願いしたので、これはもうやるものだと思ひ込み、私や目崎さんは具体的な人集めの方法なども考えていたわけですが、それが役員会でやらないことになったというのです。その理由はいまだによくわかりません。

漏れ聞くところによると、かわりに「歌祭り」をされるそうですが、そもそもなんで八月に歌祭りをしなかったのか、その理由もわたくしにはよくわかりません。

機関誌を通じて今年から愛善苑に深くかわかることになりました

が、いまもって愛善苑には、不可解なことがあまりにも多いのです。

路線に関する議論がなかったのは残念

なお、私個人としては、出口三平さんとはくつたなくつきあつてきました。子供連れでいっしょに伊豆の温泉に旅行した楽しい思い出もあります。その後もいろいろな問題が起こっていると仄聞して、私は三平さんをもういちど温泉に誘つて、今度こそもつと踏み込んだ彼の胸のうちを聞き、なかパイプ役になればとも思つたりしましたが、そのうちに事態はどんどん進行していきました。

昨年の総代会以降の事態のなかで、私は公然たる路線問題をめぐる議論が行われることを期待していました。そもそも昨年夏には、歌祭りの服のことで一悶着あつたらしいですが、なぜそういう問題を双方が機関誌で議論しなかつた

のか、これもいまだに不可解でしょうがありません。

昨年暮には、一部の役員さんに個人的に、事態がここまで来たのなら、公然たる路線問題をめぐる議論に転化したほうがいいと思ひますという建白を行いました。実現しませんでした。結果的に三平さんが去ることになったとしても、本来なら、彼の名譽のために、そういう議論があつて去るなら去るといふふうになつてほしかったという思いがいまなおあります。ところが、なんか役員会では交通費がどうのこうのということが問題になつたと聞いてあきれました。

宗教団体にとって大切な教学問題、路線問題はいつたいたうなつたのかたいへん不可解です。

愛善苑の教えは素晴らしいですが、その教えを奉じる共同体の運営の手法に、教えと矛盾する大きな疑問を感じざるをえません。

以上、忌憚のない意見を述べさせて頂きました。まだまだ言いたいことはあります。もちろん、聖師さまのご加護があつたとはいえ、役員諸先生方のリーダーシップがなければ、愛善苑の再発足もなかつたわけで、われわれはそれ余徳をこうむらせて頂いておるわけです。しかし、それを充分承知のうえで諫言せざるをえない事情をご賢察下さい。

百周年慶祝賀講演会中止の不可解

来年の三月七日の慶祝講演会の中止について機関長会議で若草分苑の常松さんが質問をされています。

それに対し執行部側は「いづとみづ時代に亀岡会館でイベントをしたとき莫大な費用がかかったが、たいした効果はなかった。あまりよい印象がないし、今の愛善苑は多大な出費はできない」というへんな回答をしています。

しかし、亀岡会館の借用料は午前九時～午後五時まで借りて一万八千円です。照明やら諸経費を入れても五十万円ほどですむのではないのでしょうか。つまり本苑の一般予算を使わなくても、各分苑から五万円ほどの拠出があれば、慶祝行事は出来るのです。

しかも、わざわざ機関長会議を招集しているのであれば、密室の責任役員会であらかじめ決めるのではなく、「こういう祝賀行事と講演会をやる」という提案があります。執行部としてはこういう困難な点があると思いますが、皆さんが一致協力してやろうというのなら、再検討の余地もあるかと思えます。皆さんどうでしょう」と、なぜ機関長さんたちにはからなかったのでしょうか。

もちろん、こういう企画は、どこまで未信徒の方を集められるかが勝負です。それについて、あたまから無理と決めてかかるのではなく、それこそ機関長の皆さんに知恵を出して頂くなから、失われつつある苑全体としての一体感が生まれ、大きな前進の礎

となるのではないのでしょうか。これからは機関長会議で活動方針を審議してもらおうという執行部の意向が言葉通り真剣なものであれば、ちよūdい機会だったはずではありませんか。まったく不可解な話です。

なお、いづみづの時は、有名芸能人を呼び、聞くところでは百万円の謝礼をはらうなどしたために莫大な経費がかかったのである。それを根拠にして開教百周年の記念講演を中止するなど「糞にこりて膾をふく」というものではないのでしょうか？

いったい、中止になった本当の理由は何なのでしょう。また、責任役員会で真剣にやるかやらないか議論するのであれば、その前提として、なぜ提案者である私たちの意見や趣旨を聴聞しようとしなかったのでしょうか。不可解の一語につきまます。

私たちは現状を憂い、愛善苑がその目的と使命にそつて正しく改革されるよう心から願います。また聖師さまのみ教えにかなうよう活動させて頂き、社会に広く宣教できる日が来るよう強く望んでおります。

山口分苑 大岡ヨシ江

千葉分苑 目崎真弓

目崎五郎

松田明

武田崇元

豊玉分苑 佐藤隆

平成九年十一月十五日